

文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 (①保修06-15-5/5)

目 的

我が国では和紙、糊、膠、漆、顔料などの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これら文化財に使用される伝統技術及び材料や修理で使用する合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催した。

成 果

1. 2009年度から継続して進めた表装裂資料のデータベース化を終了させ、広く利用できる目録を完成させた。
2. 文化財建造物に使用する漆塗料の劣化状態の調査に関する悉皆調査を進めるとともに、Py-GC/MS分析による塗装材料の性質の調査を行った。このような調査実績を日光東照宮陽明門、輪王寺三仏堂、旧鶴岡警察署庁舎などの塗装彩色修理の施工作業に役立てた。
3. 研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積して作業を完了させた。
4. 「日韓における文化財建造物の塗装彩色研究の動向」として、2015（平成27）年10月20日（火）に当研究所・地下会議室において日韓文化財研究交流協議会を開催し、24名の参加を得た。また、「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」として、2016（平成28）年1月26日（火）に当研究所の地下会議室で「第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会」を開催し、36名の参加を得た。
5. 本プロジェクトが取り組んできた文化財建造物の旧塗装彩色の調査と修理協力に関する研究会内容を纏めた和文ブックレット刊行物『建築 文化財における塗装材料の調査と修理』『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』の英語版の完全原稿を作成し、作業を完了させた。

論文

- ・北野信彦「陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巢籠鶴」の科学調査」『大日光』85 pp.20-27 日光東照宮 15.8
- ・北野信彦「当世具足の塗装技術に関する科学調査」『甲冑武具研究』191 pp.2-24 日本甲冑武具研究保存会 15.8

発表

- ・北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫「日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査」第37回文化財保存修復学会大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- ・北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年「日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理」第37回文化財保存修復学会大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

刊行物

- ・『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2015年度』東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 北野信彦、朽津信明、早川典子、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）、本多貴之、（客員研究員）

文化財の保存環境に関する研究会 (①必修03-15-5/5の一部として実施)

「文化財の保存環境の研究」プロジェクトでは、汚染ガスが高濃度となり、文化財への影響が大きい展示ケース内の空気清浄化に関する研究を進めてきた。本研究会では、これまでに行ってきた適切な内装材料選択のための放散ガス試験法の試案作成、内装材料の放散ガスデータの収集、解析などの結果を踏まえた、実験用に制作した実大展示ケースを用いた展示ケース内濃度の測定、気流の可視化、そして清浄化機能に関する試験について、さらに保存環境現場での汚染ガスの対策事例について報告した。

「文化財の保存環境」に関する研究会—実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価—

日 時：2016（平成28）年2月15日（月） 13:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：135名

講演者：佐野千絵（東京文化財研究所）「趣旨説明」

古田嶋智子（東京文化財研究所）「実験用実大展示ケースにおける放散ガス」

須賀政晴（岡村製作所）「実験用実大展示ケースの気流性状について」

呂俊民（東京文化財研究所）「実験用実大展示ケースを用いた清浄化と濃度予測について」

佐野千絵「空気清浄化事例と清浄化手法の提案」

文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 (①必修06-15-5/5の一部として実施)

平成27年度は、これまで伝統技術研究室が中心となって取り組んできた文化財建造物の塗装彩色に関する調査と修理に関する総括と、今後の課題である日本産漆塗料の文化財建造物修理への使用に関する研究会を開催した。この研究会は、平成21年度に開催した第3回研究会の「建築文化財における漆塗料の調査と修理—その現状と課題—」、平成23年度に開催した第5回研究会の「建築文化財における伝統的な塗料の調査と修理」、平成24年度に開催した第6回研究会の「建築文化財における塗装彩色部材の劣化と修理」、平成26年度に開催した第7回研究会の「文化財建造物における木彫彩色の調査・修理・資料活用」、第8回研究会の「日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理」の続編ともいえる内容である。研究会では、日本産漆を文化財建造物に使用するために取り組んでおられる行政、生産者、修理者のそれぞれの立場の講師から、最新の情報を提供いただいた。

第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」

日 時：2016（平成28）年1月26日（火） 13:00～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

講演者：北野信彦（東京文化財研究所）「文化財建造物の塗装彩色修理と漆塗装」

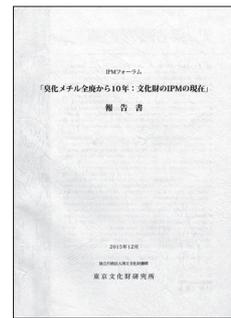
清永洋平（文化庁）「文化財建造物への日本産漆100%使用に向けて—行政の取り組みから—」

中村裕（日本うるし掻き技術保存会）「岩手県二戸市浄法寺における漆生産の現状と課題—日本産漆生産地の取り組みから—」

佐藤則武（日光社寺文化財保存会）「日光東照宮修復の歴史と日本産漆の使用—塗装修理現場の取り組みから—」

『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（①必修02の一環として実施）

本報告書は、2015年7月16日に開催したフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」の各講師の講演内容を基に論文集として取りまとめたものである。モントリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えた概論や事例研究の論文を掲載している。報告書の幅広い活用をめざし、掲載論文のPDFファイルをインターネット上で公開した。2015年12月刊行、84ページ。



『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2015年度』（①必修06の一環として実施）

劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動と五カ年計画の総括を行った報告書である。報告書では、①調査研究報告として、表装裂試料データベース目録一覧、②本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨、③本プロジェクト研究五カ年の総括、を掲載した。2016年3月刊行、87ページ。



『未来につなぐ人類の技15—洋紙の保存と修復』（①必修07の一環として実施）

本書は、2014（平成26）年11月に東京文化財研究所で開催した研究会「洋紙の保存と修復」に関して、元国立国会図書館副館長、脱酸処理技術などによる資料保存を行う企業担当者、装こうの修復技師、メキシコとカナダの国立公文書館にて修復作業を担当している方々による講演と、質疑応答の抜粋をまとめたもの。2016年3月刊行、79ページ。



Conservation and Restoration of Modern Textiles（①必修07の一環として実施）

本書は、2016（平成26）年3月に発行した、「近代テキスタイルの保存と修復」の英訳版。博物館、美術館の保存修復部門の方々、研究機関の修復室の方、更には染織品修復師の方等による、近代テキスタイルの保存と修復に関する講演録。2016年3月刊行、77ページ。

